

2024年度入学試験（2月）  
大学院デザイン工学研究科

建築学専攻 修士課程  
キャリア3年コース

## 入学試験問題・解答用紙

### [小論文]

2024年2月17日（土）  
9：30～12：30

#### <解答要領>

1. 解答は、問題用紙の解答記入欄にすること。
2. 問題用紙（解答用紙）のすべてに、受験番号と氏名を記入すること。また、表紙右下に受験番号を記入すること。
3. 裏面は使用しないこと。解答用紙配付枚数が不足する場合は、試験監督に申し出ること。
4. 参照はすべて不可とする。
5. 問題用紙（解答用紙）はすべて提出すること。
6. 別途配付する計算用紙は提出不要。

受験番号	
------	--

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号			
小 論 文 (1 枚目／2 枚中)	建築学専攻	不可	不可	<div style="border-bottom: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
				<div style="border-bottom: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			
				<div style="border-bottom: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>			

※参照可の場合 ( )

問1 以下の文章を読み、筆者はなぜそう考えたのかを論じなさい。

「縮退の時代の理論と方法を、日本もようやく求め始めたのである。そこまで見越したわけではないが、時代の転換点だった70年代初めに、脱近代、ポスト高度成長の価値に基づく新たな社会の可能性を求めて仕事をするのに、建築史・都市史の研究を自分の道として選んだこと、成熟国でかつ日本とも共通性の多いイタリアを研究対象として選んだことはじつに幸いだった。私のこの最終講義でも、日本の国が近代的な成長社会から成熟社会に臨む時代に推移する状況にあって、建築史という学問分野にどんなかたちでアドヴァンテージが生まれたか、そのチャンスをどう活かそうとしたかを語りたいと考えた。」（陣内秀信・高村雅彦編著『建築史への挑戦 住居から都市、そしてテリトリーオへ』鹿島出版会、2019年より抜粋）

[illegible]

試 験 科 目	専 攻	参照	電卓	受 験 番 号
小 論 文  (2 枚目／2 枚中)	建築学専攻	不可	不可	
				氏 名

※参照可の場合 ( )

問2 世界の歴史的な建造物や都市を一つ取り上げ、他国の事例と比較しながら、その特徴について記述しなさい。

[取り上げた歴史的な建造物あるいは都市]

**[特徴]**